

米国ワシントン大学短期英語プログラム 報告書

北海道教育大学函館校

情報科学専攻 2年 千葉聡一郎

1、はじめに

私は正直言ってこの留学に参加する前は英語が嫌いで、ずっと英語から逃げてきた人間です。中学の頃から英語に対しての苦手意識があり、テストでの点数はあまりよくはありませんでした。英語なんて将来使わないしとか英語を勉強してもできないしなどと思っていました。けれども大学に入り私の考え方は大きく変わりました。高校生までの私は部活中心の毎日



を送り、何をやるにしても部活部活と考える人間でした。だからこの大学も一発で受かるはずがなく、仮面浪人をしてこの大学に入学しました。大学でも部活を続けようとは思っていましたが、浪人生活をしていくうちに自分は一体何がしたいのだろう、自分はどんな人間なのだろうと考えさせられる時間が多くあり、自分はこの社会や日本、世界について知らなすぎるだからもっと様々な経験をして自分の世界観を広げ、改めて自分を見つめなおしたいと思うようになりました。今まで逃げてきたことに大学では挑戦しようそしてやりたいと思ったことはすぐに行動に移してやってみようそう思うようになりました。だから私はこの大学に入りこのプログラムを発見した時はすぐに不安も多くなりましたが参加しようと思い申し込みました。

2、授業について

大学での授業は英語のみの授業でした。友達と話すときも聞くときもすべて英語です。だから、教室で日本語を話してはいけません。けれども私が参加した時はたまたま日本の学生しかこのプログラムに参加していなかったため思わず日本語を話して注意される時もありました。通常であれば、様々な国の大学生と一緒に授業を受けるらしいです。英



語が苦手な私は英語で言葉を考え、自分の言いたいことを伝えることはとても難しく頭の中で何度も文章を作成して言葉に出すという感じが初めの一週間は続きました。けれどもその後、英語も少しずつではありますが、なんとなく聞き取れるようになり、また話す内容も少しずつ早く考えられるようになっていきました。授業内容はテキストを初めに配布されますがそれはあまり使用しません。主に会話を中心とした授業で友達にいろいろな質問を投げかけそれについて話したり、教室の外にでてコーヒーショップに行き店員さんにコーヒーの質問をしてきたり、また英語字幕で映画を鑑賞しそれについて感想や自分の意見を述べたりしてクラスの皆と会話するという内容が多い授業でした。また最後にはプレゼンを1グループ3人で行います。私はアメリカの“スポーツ”について大学の学生に質問し発表しました。すべてが英語で未知の世界ではありましたが授業は毎日が楽しいものでした。高校の時は英語の授業の時間だと聞くと出たくない行きたくないと思う毎日でしたが、留学している時はそんな気持ちになったことは一度もありませんでした。それ位楽しい日々でした。英語のセンター試験のリスニングが1桁の私でも授業を受け、また生活することができたので、英語ができないと思っている人でも大丈夫です。むしろ参加することに意味があると私は思っています。けれども参加した以上は思い切って何事にも挑戦してみてください。

3、シアトルでの生活について

シアトルでの3週間はあっという間に感じました。私が行った季節はちょうど雨期の時期だったので雨の降らない日はない感じがしましたが、強い雨ではなく小雨がずっと続く感じだったので普通に行動することはできました。大学は午前中が授業で午後や土日はフリータイムなので自分の好きなところへ観光に行ったり、遊びに行ったりすることができます。私は野球が好きなので大リーグマリナーズの本拠地である



セーフコフィールドに行ったり、スターバックス1号店や本社に行ったり多くの場所に行きました。3週間は長いようですごく短いので行きたいところすべてに行くことはかなり難しいです。だからこれから行く人は忙しいとは思いますがシアトルについてしっかりと調べ自分がどこに行つて何をしたいのかを考えていった方が無駄な時間なく過ごすことができると思います。また、アメリカはクレジット社会であるので、どんなところでもクレジットカードが使えます。現金でものを買うこともありますがほとんどクレジットカードで私は物を買ったりしました。クレジットは初め限度額が10万円なので、2枚持つていくと安心ですが盗まれないようには気を付けてください。

4、留学で感じたこと

留学をしてみず違うと感じたことは文化の違いです。アメリカ人は陽気で表現力がとても豊かな人が多く気軽に話かけてくる雰囲気があります。朝大学に行くバス停まで行く間にすれ違った人たちとは挨拶を必ず交わしていたような気がします。またスタバに行った時もちょっとしたことから会話に発展したりもしました。話は変わりますがアメリカはすべてのものが大きくなんでもありな社会だなということも感じました。道路をスケボで走っている人がいたり、道端で歌を歌っている人がいたり、バスがかなり大きかったりと私にとって毎日が驚きと興奮の毎日でした。私は3週間を通してほぼ毎日友達と様々なところに行きました。けれどそこで私はある場所に行くとしても多くの日本人と行動すればするほどほんとにここはアメリカなのだろうかと感じてしまうことに気づきました。だから私はできるだけ少ない人数で行動したり、1人で行動したりもしました。そうすることで自分は今アメリカという場所にいるのだ感じる事ができたり、1人でアメリカ人と会話したり、少ない人数の友達と力を合わせてなんとか言いたいことを伝えたりとすることでそこで生まれる達成感や自分の英語に対する未熟さなど多くのことを経験し学びました。私は留学を通し1歩前に成長した自分になれた気がします。留学をして1番学んだことといえば、恥ずかしくないということと何事にも挑戦するという気持ちを持つことということです。だから、もし留学に行こうかどうか迷っている人は行かないで後悔するのではなく行って後悔してください。きっとその中でも自分を成長させてくれる何かを得ることができると思います。私はこれからもやりたいと思ったことには躊躇せず挑戦していきたいと思います。自分の苦手なことに挑戦することで新たな自分を見つけることができると思っていますからです。

